

# 福井藩のリサーチャー 浅井 八百里 (政昭)

浅井八百里 (政昭) (1813~1849) は、窮乏していた藩財政を立て直した藩士として有名な中根雪江の従兄です。側頭取から目付となり、松平春嶽の教育係だったことで知られています。

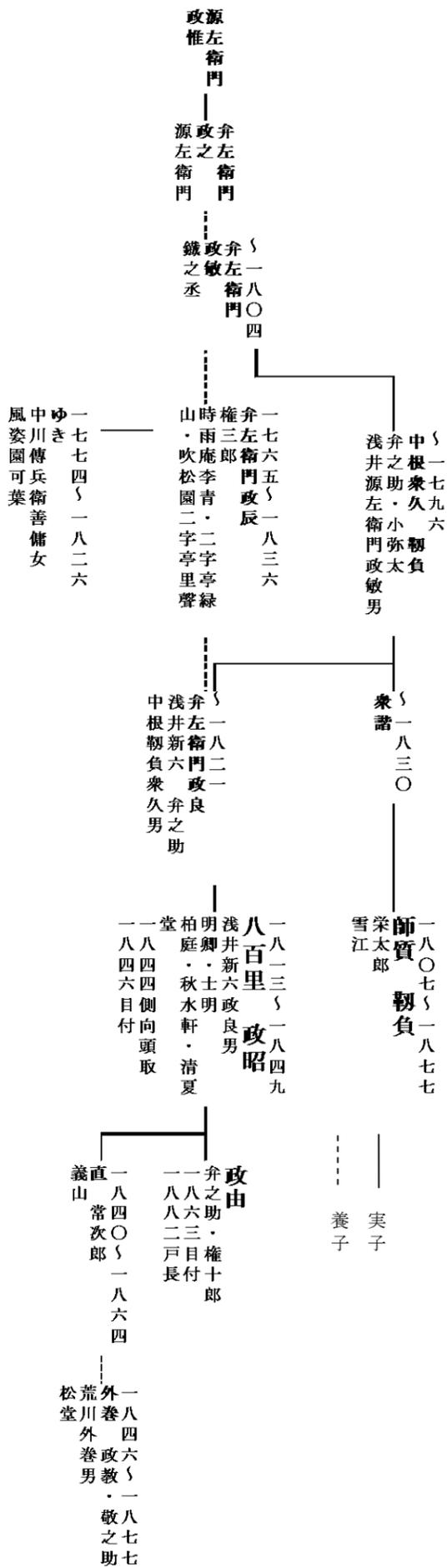
これまで八百里には、学究肌の人物というイメージが強かったのですが、いっぽうで、低い階層からの人材登用を見越した下級家臣の人事管理文書「新番格以下」の作成にも深く関与していたことがわかりました (『福井県文書館資料叢書 9 福井藩士履歴 1 あ~え』解説)。

そして、八百里が目付として取り組んだ人事管理のしごとには、各藩士の屋敷地の変遷を確認する作業も含まれていました。二つの絵図は、このような空間的把握のために用いられ、浅井家にのこされたものと考えられます。

有能な教育者であり官僚でもあった八百里は 37 歳という若さでこの世を去ります。もう少し長生きしていたら、橋本左内や横井小楠といった、その後の激動の福井藩を支える重要人物の一人となっていたに違いありません。

子息の権十郎も、目付として藩政に関わったいっぽう、弟常次郎は、禁門の変で戦死しました。藩政改革に奮闘しながら、道半ばで早世した父八百里とともに、浅井家は大きな時代のうねりに巻き込まれたといえるでしょう。

《浅井家家系図》



- ※以下の出典を参考に作成
- 『福井県文書館資料叢書 9 福井藩士履歴 1 あ~え』(福井県文書館、2013)
  - 『福井藩士人物録』(松平文庫 962 (M56-6))
  - 福田源三郎編『越前人物志』(思文閣、1972)
  - 『中根雪江先生展』(福井市立郷土歴史博物館、1977)

まぼろしの「執法全鑑」

八百里は、古書を調べ古老に尋ねて藩政の先例集「執法全鑑」全二八巻を編さんしたとされていますが、全貌は明らかではありません。松平文庫にはその一部と思われる冊子がのこされており、内容は詳細で、几帳面な八百里のようすをよく示している、優れた資料です。



「御城下諸事之部」松平文庫 653 (M42-11) 福井県立図書館保管 八百里が著した「執法全鑑」のうちの一冊とされています。